

「コンテンツ・セミナー 広島 2013」を開催

～ コンテンツの海外展開と魅力あるコンテンツ発信の促進に向けて ～



【主催者挨拶】 齊藤局長

中国総合通信局(局長:齊藤一雅)は、12月5日に広島市内で中国経済連合会及び中国情報通信懇談会との共催により「コンテンツ・セミナー広島2013」を開催し、放送事業者、映像製作会社、自治体、観光関係者及び大学・専門学校・研究機関などから91名の参加がありました。

本セミナーでは、「クールジャパン戦略」の実現に向けた、コンテンツ流通市場の実態・分析や、中国地域から世界に向けてコンテンツを発信し続ける企業の先進事例、さらには各地域のコンテンツ利活用の実例を紹介し、今後の魅力あるコンテンツ発信のあり方について展望しました。

まず、齊藤局長から「コンテンツと言えば、海外展開と地域とのコラボの2つの切り口がある。後者では、観光のプロモーションや企業のマーケティングや行政の広報を通じて、地域の活性化や雇用創出で成功している事例も少なくない。本日は、沢山の具体的な事例が学べるよい企画なので、ぜひ、最後まで楽しんでいただきたい。」と挨拶がありました。

講演1で数永講師は、日本のコンテンツ流通市場の現状を分析、さらに海外展開へ向けての課題やその経済効果について紹介し、「日本のコンテンツを広く世界に知ってもらおう！知ってもらったら当地に来てもらおう！これにより地域の活性化が図られる。百聞は一見に如かず”Seeing is believing.”」と締めくくりました。

講演2で亀井講師は、広島の映像プロダクションが製作した日本のプロモーション番組をフランスのケーブルテレビ会社と連携して放送した結果、広島へのフランス人観光客の増加や海外での地元商品の販売促進につながった成功事例について紹介しました。

講演3で谷口講師は、日本のアニメーション市場について分析し、制作拠点の首都圏への過度な集中や市場の飽和などの問題点を指摘しました。また、コンテンツの発信による地域振興については、境港・鷲宮・竹原・富山モデルなどの成功事例を取り上げ、全国的なヒットで一過性の効果に終わらせることなく、継続的に地域振興につなげていくためには「地元の人々が地元で愛着を持って協力し、コンテンツを活用し発展させていくことが重要である。」と述べました。

最後に「地域の活性化につながるコンテンツ発信のアイデアを探る」というテーマで、広島大学の児玉准教授を進行役に迎えてオーディエンス討論を行い、資金・地域性・人材育成の3つの課題について、行政の支援や自治体・異業種との連携、双方向性のあるSNSの活用など、あらゆる手段で情報を発信し続けることが重要であると論点をまとめ、終了しました。

中国総合通信局では、今後も地域におけるコンテンツの流通促進に向けた様々な取り組みを行ってまいります。



講演1 総務省情報通信政策研究所
調査研究部 主任研究官 数永 信徳



講演2 株式会社テレビ新広島営業局
営業開発部兼株式会社ティ・エス・エス・プロダクション
出向マネージャー 亀井 琢也 氏



講演3 広島国際学院大学
情報文化学部情報デザイン学科
准教授 谷口 重徳 氏



オーディエンス討論の様子



オーディエンス討論 進行役
広島大学 情報メディア教育研究
センター 准教授 児玉 明 氏



セミナー会場の様子

<問い合わせ先> 中国総合通信局
情報通信部情報通信連携推進課
TEL 082-222-3481